

平成 30 年 5 月 15 日

消防庁における熱中症対策

1. 熱中症による救急搬送人員数の調査と公表

① 調査の概要

全国の消防本部を調査対象とし、5月1日を含む週の月曜日から9月30日を含む日曜日までの救急搬送人員数調査を実施

② 調査結果の公表

調査結果は週報を消防庁ホームページに公開するとともに、確定値を月報として報道発表

③ データ提供

データは消防庁 HP において、Excel 形式で提供

H30 年度の救急搬送人員数の週報	
4/30~5/6	358 人

H29 年度の救急搬送人員数	
5~9 月の合計	52,984 人

2. 特設ホームページ「熱中症情報」等による予防のための普及啓発

① 熱中症による救急搬送人員数（週報・月報）の内容を情報発信（再掲）

② 予防啓発コンテンツ

（1）予防啓発ポスター

熱中症による緊急時には、ためらわずに救急車利用を呼びかけるポスターを作成・配布

（2）予防啓発ビデオ

熱中症予防のポイント等を説明した動画を作成（5分、15秒）

（3）予防啓発イラスト

「消太」を活用して熱中症予防を呼びかけるイラストを作成（30種類）

（4）予防広報メッセージ

移動車両等での広報に用いるメッセージを作成（20例）

日本語を含めて4言語作成（日、英、中、韓）

（5）熱中症対策リーフレット

熱中症の予防法や対処法のポイントを記載

（6）熱中症予防啓発取組事例集

自治体における取組事例を紹介

（7）ツイッターによる注意喚起（フォロワー数：約90万）



啓発ポスター



啓発ビデオ



啓発イラスト



消防庁ツイッター
（スマートフォン画面）

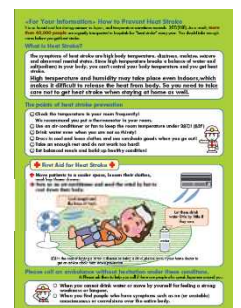
3. 訪日外国人に対する普及・啓発

① 訪日外国人のための救急車利用ガイド

急な病気やけがをしたときに、必要な情報を掲載（7言語）

（英、中繁・簡、韓、伊、仏、タイ）

② 予防広報メッセージの作成（3言語）（再掲）



救急車利用ガイド

熱中症を予防して元気な夏を！



夏に向けて、熱中症になる人が増えてきます。
熱中症を知って、しっかり予防し、楽しい夏を過ごしましょう！



このリーフレットでは、熱中症の症状や応急手当を紹介しています。



救急車を呼んで、一刻も早く病院へ行く必要がある状態や、症状についても紹介しています。当てはまる場合は、急いで119番しましょう。

※消防庁が作成した全国版救急受診アプリ「Q助」や「救急利用リーフレット」も合わせてご覧ください。（上記のQRコードをスマートフォンなどで読み取ることで、簡単に接続できます）



Q助サイト



救急車利用リーフレット



消防庁 FDMA

<http://www.fdma.go.jp/>



熱中症とは？

温度や湿度が高い中で、体内の水分や塩分（ナトリウムなど）のバランスが崩れ、体温の調節機能が働かなくなり、体温上昇、めまい、体のだるさ、ひどいときには、けいれんや意識の異常など、様々な障害をおこす症状のことです。

家の中でじっとしていても室温や湿度が高いために、体から熱が逃げにくく熱中症になる場合がありますので、注意が必要です。

熱中症の分類と対処方法

重症度	症状	対処	医療機関への受診
↓	・めまい ・立ちくらみ ・こむら返り ・手足のしびれ	・涼しい場所へ移動 ・安静 ・冷やした水分、塩分補給	・症状が改善すれば受診の必要なし
	・頭痛 ・吐き気・吐いた ・体がだるい ・集中力や判断力の低下	・涼しい場所へ移動 ・安静 ・衣類をゆるめ体を冷やす ・十分な水分と塩分の補給	・口から飲めない場合や、症状の改善が見られない場合は、受診が必要
	・意識障害（受答えや会話がおかしい） ・けいれん ・運動障害（普段通りに歩けないなど） ・体が熱い	・涼しい場所へ移動 ・安静 ・衣類をゆるめ保冷剤などで冷やす	・急いで救急車を要請

熱中症予防のポイント

- ☺ 部屋の温度をこまめにチェック！
（普段過ごす部屋には温度計を置くことをおすすめします）
- ☺ 室温28℃を超えないように、エアコンや扇風機を上手に使いましょう！
- ☺ のどが渇かなくてもこまめに水分補給！
- ☺ 外出の際は体をしめつけない涼しい服装で、日よけ対策も！
- ☺ 無理をせず、適度に休憩を！
- ☺ 日頃から栄養バランスの良い食事と体づくりを！



子供の特徴

地面の照り返しにより、高い温度にさらされやすい



汗腺などが未熟

体温調節機能が未熟なため、熱中症にかかりやすい

保護者の方へ

- お子さんの顔色や汗のかき方を十分に観察しましょう！
- 喉の渇きに応じて水分補給や休憩をとらせましょう！
- 日頃から外遊びをさせて、暑さに慣れさせましょう！
- 外出時は熱のこもりやすい服を避けて、帽子をかぶりましょう！

高齢者の特徴

のどの渇きを感じにくい



暑さを感じにくい

汗をかきにくい

体温を下げるための体の反応が弱くなっており、自覚がないのに熱中症になる危険がある

熱中症にならないために

- 室温をこまめにチェックし、エアコンや扇風機等を活用！
- のどが渇かなくても水分補給をしましょう！
- 1日1回汗をかく運動をしましょう！
- 世話をする人は、普段の様子が変わったと思ったら、ためらわずに医療機関を受診させましょう！

熱中症の応急手当

- 涼しい場所や日陰のある場所へ移動し、衣服を緩め、安静に寝かせる
- エアコンをつける、扇風機・うちわなどで風をあて、体を冷やす



年代別では高齢者が5割近くを占めており、乳幼児と少年を合わせると1割以上となっています。傷病程度別では、4割近くの方が入院しています。また、発生場所別では、4割近くが住居において救急搬送されています。

熱中症による救急搬送者の内訳（平成24年～平成29年合計）

【年齢区分別】



【傷病程度別】



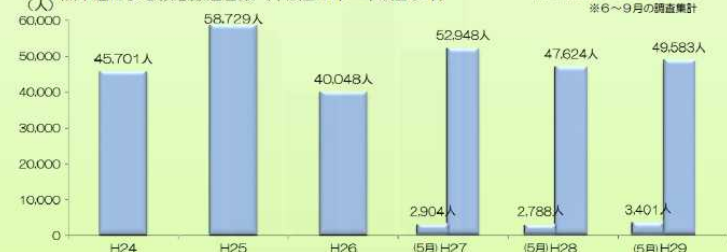
搬送人員計 294,633人 ※6～9月の調査集計

【発生場所別】



熱中症により、毎年約4万人以上の方が救急搬送されています。熱中症による救急搬送者増加の要因として、気温や湿度の上昇が関係していることが分かっています。特に、梅雨明け前後の暑さには、最も注意が必要です！！

熱中症による救急搬送者数（平成24年～平成29年）



◆消防庁では、HP上で熱中症の救急搬送状況調査の速報を週ごとに公表しています。

URL: http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

参考: 環境省「熱中症環境保健マニュアル」
http://www.wbgetenv.go.jp/heatstroke_manual.php

消防庁 FDMA

<http://www.fdma.go.jp/>

